

平成24年度 番組審議会報告

開催日	平成25年4月24日(水)		
番組審議委員 出席者	審議委員	小池生夫 石川次郎 大宅映子 小西克哉 吉永みち子	(委員長) (委員) (委員) (委員) (委員)
決議事項	<委員長の選出> 新たに選出された委員5名の中から、小池氏を委員長に選出		
審議対象	<CNNjが放送した下記の番組について> (1)「ピアース・モーガン・トゥナイト」銃規制論争 (2)「CNNフリーダム・プロジェクト」モザンビーク女性支援作戦(Mozambique or Bust) (3)「トーク・アジア」村上隆氏インタビュー		
審議概要	(1)「ピアース・モーガン・トゥナイト」について 暴力的にまくしたてる銃規制反対派のアレックス・ジョーンズというゲストと温厚な構えで、そのわめきたてるゲストの狂気を上手に引き出して見せた司会者、ピアース・モーガンとの対比に惹き込まれる。銃規制という古くて新しい論争を、CNNは敢えて論点整理等をせず、銃規制反対派を言うがままにさせたことで、銃規制反対派の危険性を浮き彫りにした。日本のテレビ放送ではなかなかお目にかかれないような番組。同時通訳について、ゲストとホストで激しい論戦をするのに、同時通訳者は1人だけでつけていたが、これは無理があるし聞きづらかった。通訳者2人で、それぞれ分けて通訳するか、英語の原音を生かしながら字幕をつける等の工夫が欲しい。 (2)「CNNフリーダム・プロジェクト」について CNNが、こうした一市民の海外支援プロジェクトについて、スタートするところから良く取材していた。プロジェクトは、不要になったブラジャーを集めるという発想がユニークで、番組の中でもカラフルなブラジャーが印象に残るように撮られている。プロジェクトを起こす女性達の行動力がアメリカそのものを見るようにパワフルで、映画のような展開感があり、主人公の女性も大変明るく魅力的だった。ただ、構成が少し大味で冗長であり、ドキュメンタリーとしては細部の緻密さとヤマ場感が欠けていた。 (3)「トーク・アジア」について 村上隆氏は、主に海外での評価が高く、その作品は、他の日本人アーティストとは格段の差がつく値段で売れている。作風は、日本のオタク文化の影響が強く、漫画のようでもあり、猥褻な印象が強い作品もあるので、彼の作品の高額さには誰もが驚くが、実はそれらの作品よりも彼自身の存在の面白さというものがある事まではこの番組ではカバーされていない。 村上氏は、日本語でインタビューに答えている部分が多かったので、その部分を通訳の日本語でかぶせてしまわないで、村上氏本人の日本語が聞こえるように工夫をすれば聞きやすくなった。 インタビューアの力量不足があって、この特異なアーティストへの質問と回答に迫り切れていなかった。 審議会直前に発生したボストンマラソン爆弾テロ事件のCNN報道について CNN USは、日本国内で唯一、米国と時差なしで24時間生中継しているニュース番組で、		

事件発生時からこのチャンネルをずっと見ていた。いつ、何が起きるかわからない緊迫した状況が続く中で、放送から眼が離せず、結局、容疑者が警察と銃撃戦の末逮捕されるまでリアルタイムで目撃することができた。ただ、日本国内で見ていると、延々と続く生中継のどこかで、事件を時系列で整理したリポートや過去の同様事件の振り返りなどサイド情報が欲しくなった。

委員のみなさんから、以上の指摘や意見交換がありました。

日本ケーブルテレビジョンでは、こうした意見を参考に、今後さらに視聴者ニーズに応え、番組内容を向上させるよう努力してまいります。